

## キックオフイベント オンラインセッション開催報告

イベント名 共催シンポジウム6A:シーズをどうやって実際に事業化するか？

開催日時 6月22日 11:00～12:00

登壇者など

【座長】片桐 豪志(Deloitte Tohmatsu Science and Technology代表、有限責任監査法人トーマツリスクアドバイザリー事業本部 ガバメント&パブリックサービシーズ パートナー)

【演者】

- 増山 達也(Deloitte Tohmatsu Science and Technology、有限責任監査法人トーマツリスクアドバイザリー事業本部 ガバメント&パブリックサービシーズ マネージングディレクター)
- 甲斐 敬輔(Deloitte Tohmatsu Science and Technology、有限責任監査法人トーマツリスクアドバイザリー事業本部 ガバメント&パブリックサービシーズ マネジャー)

【討論者】

- 清野聡子(九州大学大学院工学研究院・准教授)
- 小野悠(豊橋技術科学大学・准教授、日本科学振興協会・代表理事)

参加人数 66名

報告内容

地域の中小企業やスタートアップには、優れた研究開発における技術やイノベーション、製品などを持っていることが少なくない。しかし、それらをビジネス化し社会実装まで実現できない状態にある企業が多く、単にビジネスマッチングや専門的なアドバイスを提供するだけでは不十分で、実行支援まで提供する必要がある。このセッションは、デロイトトーマツサイエンス&テクノロジー(DTST)と共催で、こうしたシーズの事業化について議論した。とくに、デロイトトーマツが取り組んでいる「事業プロデュース」―出口戦略に注力した伴走支援のスタイルを重視―について考察した。とくに官民連携と出口戦略について報告され、社会経済評価(社会的インパクト)や特許技術の差別化事例、日本版LEP(Local Enterprise Partnership)にも議論が及んだ。討論では、大学との協働や、事業プロデュースを通じて、地域コミュニティ自体がどのように変わっていくのかなど、さまざまな視点から論点が提起された。フロアとの質疑応答も活発であり、盛況であった。